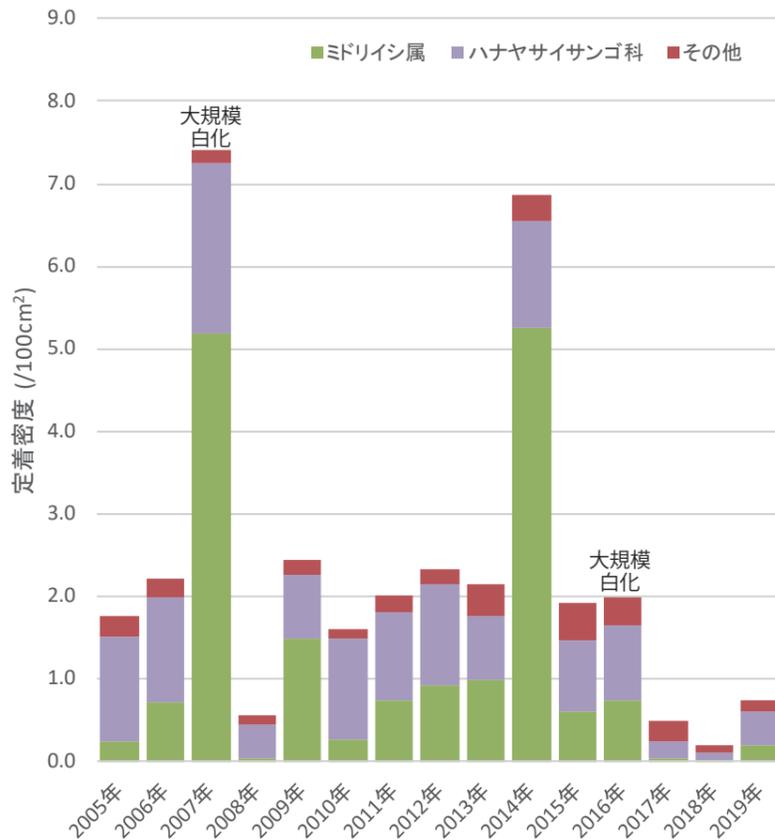


石西礁湖

自然再生

石西礁湖はいま シリーズ 26

▲一面に広がるコモンサンゴ
テンマカケジュイノー (2019年12月撮影)



サンゴ幼生の加入量の状況

環境省は、サンゴの産卵、定着といった生活史初期の動態を把握するために、ミドリイシ属、ハナヤサイサンゴ科、その他の3つのグループについて幼生の加入量調査を実施しています。加入量は、石製の板(定着板)を最も産卵が早いミドリイシ属の産卵期前の4月下旬頃に海中に設置し、約4ヶ月後に回収して定着した幼生を顕微鏡下でひとつひとつ地道に数えて調べています。

加入量の調査結果をみると、2007年、2016年の大規模白化の翌年に加入量が著しく低下しています。親となるサンゴが大規模白化で死んでしまったり、深くダメージを受けた影響で産卵できなかった群体が多かったことがわかります。2016年の大規模白化後、加入量は2018年に底を打ち、2019年は若干の回復傾向にありました。しかし、大規模白化前の水準には遠く及んでいません。一層の回復が待たれます。

3つの部会で部会長・副部会長が決定！

第3回の各部会にて部会長・副部会長が下記のとおり選任されました。部会長・副部会長を先頭に、委員全員で、取組についての情報共有や課題への対策検討をより一層積極的に進めていきましょう。

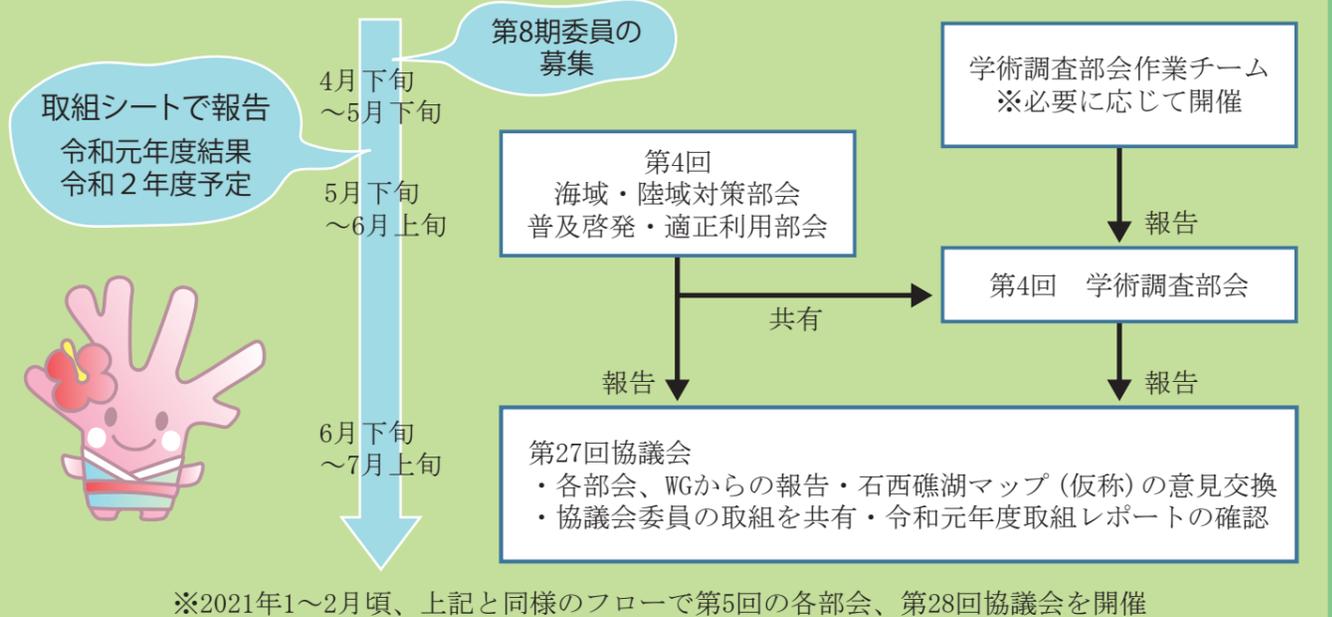
- 海域・陸域対策部会
部会長：吉田 稔委員 (八重山サンゴ礁保全協議会)
副部会長：小林俊介委員 (WWF サンゴ礁保護研究センター)
- 普及啓発・適正利用部会
部会長：大堀健司委員 (エコツアーふくみみ)
副部会長：小林俊介委員 (WWF サンゴ礁保護研究センター)
- 学術調査部会
部会長：中村 崇委員 (琉球大学)
副部会長：鈴木 豪委員 (西海区水産研究所亜熱帯研究センター)

学術調査部会内に作業チームが発足！ 検討テーマを募集しています！

モニタリング調査の結果など様々なデータを使って解析等を行い、協議会での科学的な検討に役立つための少数の作業チームが学術調査部会内に設置されました。「こんなことがもっと知りたい!」「これがわかればいいのになあ」と感じていること、ご意見ご要望などを事務局にて随時受け付けています。

また、「こんな研究、調査データがあります」という情報提供も歓迎です。委員みなさんからのリクエストをお待ちしています！

令和2年度石西礁湖自然再生協議会のスケジュール予定



編集
発行

石西礁湖自然再生協議会運営事務局

環境省 沖縄奄美自然環境事務所 内閣府 沖縄総合事務局開発建設部港湾空港技術対策官

【住所】〒907-0011 沖縄県石垣市八島町2-27 環境省石垣自然保護官事務所内

【電話】0980-82-4768 【FAX】0980-82-0279

【石西礁湖ポータルウェブサイト】<http://sekiseisyouko.com>



第26回石西礁湖自然再生協議会を開催しました！

2020年2月16日(日)に、石垣市商工会館研修室(商工会ホール)において「第26回 石西礁湖自然再生協議会」が開催され、9個人、16団体・法人(26名)、12行政(17名)の委員37機関、一般傍聴の方の計52名が参加しました。

新たに一般財団法人竹富島地域自然資産財団、竹富町世界遺産推進室の2団体の参加が承認され、委員数は124個人・団体となりました。

環境省事業実施計画が承認されました！

環境省が行う5年間の取組をまとめた「環境省事業実施計画」について、有識者による検討会を踏まえた最終の見直し案の説明があり、委員の拍手をもって承認されました。

主な変更点は下記のとおりです。

モニタリング調査

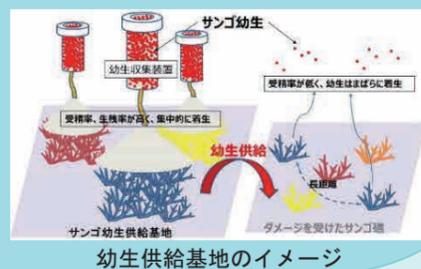
より効率よく、よりの確に実態把握できる手法で調査するため、調査地点数や項目によって調査頻度を減らす見直しが行われたり、栄養塩の影響が現れやすい藻類や、濁りの指標となる水平透明度などの新しい調査項目が追加されました。

また、以前実施されていた主に陸域からの攪乱要因(栄養塩類など)を把握するための調査が、沖縄県が実施している河川や河口域の調査と連携して復活します。



サンゴ群集修復事業

今後も起こる可能性がある大規模白化を念頭に、種苗移植を中心とした手法から転換し、礁湖内への幼生供給量を増やすための供給基地の整備に向け、そのための適地選定や導入する技術手法の検討を踏まえながら、本格導入のための試行的な事業が行われます。



陸域負荷対策との連携

データや解析結果等を積極的に共有することで対策の効果がより現れるよう、関連する行政機関や団体等の一層強力な連携が図られます。また、流域・離島など地域毎に異なる負荷量や栄養塩類の要因の定量的把握及び影響要因の評価が行われます。

取組の実施状況は各部会や協議会で報告され、効率的に効果的に石西礁湖の自然再生が進むよう、協議会委員で意見交換しながら実施されていきます。

委員の取組について報告がありました！

しまさんご塾の活動 (コーラルバンク)

「しまさんご塾」は、石垣島内の高校生を対象にコーラルバンクが提供しているサンゴ礁についての座学、実験、フィールドワークを交えた研究課題プログラムです。

協議会では、実際にプログラムに参加している高校生5名により、活動のコンセプトや内容、これまでにわかったことなどが報告されました。会場は高校生たちの参加に大いに盛り上がり、大学での実験と比較したコメントや、高校内での発表のリクエスト、興味をもったポイントの質問など、活発な意見交換が行われました。



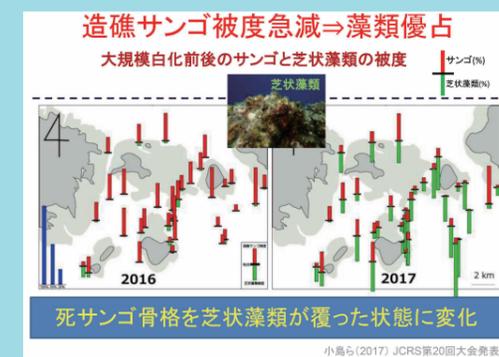
報告してくれた黒木さん、砂川さん、増田さん、星野さん、橋本さん(八重山高校)

石西礁湖でのミドリイシ属における大規模白化の影響について (中村委員(琉球大学))

石西礁湖での2016年の大規模白化について、現地調査結果に基づく報告がありました。藻類が優占する地点が増加してきており、白化の前後で景観が大きく変化していること、また、ミドリイシ属の稚サンゴの密度が礁湖内で低い一方、礁湖の北側で高く、群体の成熟度も踏まえると、外洋もしくは水路部分の潮通しの良い海域が重要なミドリイシ属保全区域になりうることなどの発表がありました。



中村委員(琉球大学)



中村委員
発表資料

※右図は黄色丸が高密度、赤色丸が低密度の位置

沖縄周辺海域の海水温について (宮内委員(沖縄気象台))

沖縄周辺海域の海面水温について報告がありました。八重山を含む沖縄の南では、2019年の年間平均は観測史上歴代4位の高い値となりました。さらに2020年1月の沖縄の東では、1月としてはデータのある1982年以降で最高の月平均値を記録したとのことでした。今後も注意が必要です。



宮内委員(沖縄気象台)